

2014/7/31 (日) 朝

## 節電の意味 親子で考える夏

主婦 秋山 薫

(兵庫県 42)

夏に限らず節電にうるさい私は「はい、冷蔵庫はすぐ閉める」「はれ、部屋から出るなら扇風機を切る」と特に小学4年生の息子には口うるさく指導する。

先日、「母さんは、ほんまにケチや」と言うので、

絶好のチャンスとばかりに伝えた。「母さんは反原発やねん。使う量を減らしたら、つくる量も少なくて済むし、原発に頼らなくても電気が足りる。君は原発をどう思う」と。

小学4年にもなれば、社会の出来事を自分のこととして受け止め、自分なりに

考えてほしい。だから「節電しなさい」ではなく、親がなぜ節電するのかを伝え、どうするのかは子ども自身に決めさせる。勉強も同じだ。

ライオンが生きる術として我が子に狩りを教える様子をテレビで見た。人間は何を教えるのだろうと考えた時、私は、ものごとを方々考える姿勢を生きる術として子に教えているのだと思った。

子どもを見る時間がたっぷりある夏休み。我が子がどんな考え方をしているのかをしっかりと見定め、一つでもプラスになる助言をしてやれたらと思う。